

## はじめに

本書は、リーマンショック後の世界資本主義の特徴を、そのときどきにおうじて、時評や書評というかたちで現状分析した論評をまとめたものである。

「21世紀の世界資本主義はどう変わったか」が、本書のテーマである。さまざまな側面を持つ現代資本主義の特徴をひとことで表現することは難しい。しかし、この問題の根底には、「現代の金融資本が、国民国家の枠を超えてグローバルに展開している」ことがある。一方、レーニンの時代（19世紀末～20世紀初頭）の帝国主義は金融資本が国民国家と一体となって運動していた。そこに現代資本主義との違いがある。

現代の金融独占体は国民国家の枠を超え、国民国家の発展も停滞も、さらには国家間の対立をも、食い物にして利潤を吸い上げるパワーアップした資本である。そういう能力を現代帝国主義はグローバル化の過程で獲得した。しかし、その巨大な蓄積された資本は、新たな投下先を求めて世界中をさまよっている。

この過剰資本の問題が、世界の政治的・経済的・社会的な問題を引き起こしている。リーマ

ンショック後の長期停滞の元凶は、過剰資本である。資本は安い賃金を求めて海外進出を繰り返し、本国に失業者を生み出し、不安定、非正規雇用と低賃金労働者を大量に生み出した。貧富の格差は広がり、社会不安が拡がっている。

「金融資本のグローバル化と国民国家の乖離」が国民国家の停滞を生みだし、各国経済内部の格差を増大させている。

二〇〇八年のリーマンショックとその後の世界恐慌から世界はまだなお脱出できていない。アメリカ・EU・日本では、「異次元の金融緩和」が七年間にわたって実施されてきた。しかし、その金融緩和が新たな投機を生み出し、金融危機を引き起こしている。その結果、長期停滞が世界中に広がり、世界をいつそう不安定にしている。

各章の論考は、独立したものである。興味のあるところから読んでほしい。

二〇一六年一月

▼目次▲

はじめに 3

序章 リーマンショック以後…………… 7

第I章 資本と労働の現在

21世紀の恐慌と都市労働者——デヴィッド・ハーヴェイ『反乱する都市』…………… 31

ハーヴェイの資本主義像…………… 45

トマ・ピケティ『21世紀の資本』——その問題点…………… 79

第II章 長期停滞のメカニズム

世界市場と長期停滞…………… 99

常態化する世界の金融危機…………… 123

世界経済のなかのアベノミクス……………134  
二〇〇八年恐慌の特徴——ポール・クルーグマン批判……………147

第三章 経済理論を読み解く

エルネスト・マンデル「周期的恐慌」論……………171  
〈書評〉ローザ・ルクセンブルク『経済学入門』……………179

あとがき 193

初出誌一覧 195